

第一回 UNISDR アジア科学技術防災会議に出席しました（2016/8/23-24）

テーマ：国際連携、APRU, マルチハザード
 場所：バンコク

8月23-24日に第一回 UNISDR アジア科学技術防災会議がバンコクで開催されました。この会議は、UNISDR、タイ政府、タイ水文・農業情報機構（HAI）が主催し、UNISDR アジア科学技術アカデミアアドバイザーグループ（ASTAAG）と災害リスク統合研究（IRDR）をはじめ、様々な組織や機関（政府、国連機関、NGO、企業、学術、メディアなど）が連携して実現しました。300名を超える参加者が集い、科学技術の防災への貢献事例などを発表するとともに、議論を行いました。

災害科学国際研究所からは、ASTAAG のメンバーでもある泉貴子特任准教授（情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス）が出席し、「仙台防災枠組の優先行動2：災害リスク管理を強化する」のセッションの最後に、セッション2の議論をもとに提言をまとめ、総括を行いました。また、APRU（環太平洋大学協会）マルチハザードプログラムからは泉特任准教授の他、コアグループメンバーである水災害・リスクマネジメント国際センター（ICHARM）顧問の竹内邦良氏、タイのチュラロンコン大学から Supot Teachavorasinskun 教授が、それぞれ「セッション1：災害のリスクを理解し、共有する」と、「セッション4：災害に十分に備え、復興時にはより良い復興を実現する」にて、事例の発表を行いました。

成果文書を取りまとめる際、泉特任准教授は APRU からの提言としてキャンパスセーフティーの重要性を盛り込むことを強く要請しました。今後参加者の意見を取り入れながら、最終の成果文書として11月にインドで開催されるアジア防災閣僚会議にて正式に発表されます。



竹内氏の発表



Supot 教授の発表



泉特任准教授の総括



パネルディスカッション